

活水女子大学教職員ならびに学生を対象とした生成 AI 利用指針

(この指針における生成 AI とは、一般的に用いられているクラウド上のものを指す)

昨今の生成 AI の急速な進化と普及は、私たち教育機関における教育活動・研究活動・職務および学習活動に大きな影響を及ぼしています。便利ツールとしての活用に終始すると、「考えないで済む」ことは「考える機会を減らし、自身の成長を放棄する」ことにつながるため、業務や学習を通じた成長の阻害要因になる可能性があります。そのため、生成 AI を（積極的かつ効果的に）活用しつつ、これが各種コンプライアンスや研究倫理に反することに繋がらぬよう、また、個々人の資質・能力向上の阻害要因に繋がらぬよう、さらに学生生活への影響についても斟酌し、本学では以下を指針として掲げます。

生成 AI は学修支援や業務効率化の有効なツールとなり得る一方、「相談相手」のような存在にまでなりつつあります。しかし、これからの AI 時代において、自ら考え、判断し、他者と協働する力がいっそう重要になります。本学に関係する教職員・学生は、大学での活動を通じてそうした力を培う機会を大切にしてください。

1. 基本姿勢

生成 AI を利用するか否かは、基本的には個々の倫理観やリテラシーに委ねられるものです。生成 AI が提供する情報の中には誤った内容も含まれています。一律にこれの利用を禁止するものではありませんが、生成 AI の特徴（得意なこと・苦手なこと）を理解し、教育活動・研究活動・職務・学習の目的に応じ、自己の責任において、あくまで主体的に適切に利用すること。

2. 情報セキュリティ

生成 AI に質問等を入力する際は、入力した情報が外部に流出したり、AI の学習データとして使用されたりする可能性があります。個人情報や機密情報、未公表の研究データなどを絶対に入力しないこと。

なお、生成 AI サービスによっては、入力した内容を AI の学習に使用しない設定（オプトアウト）が可能な場合があります。学習を許容しない設定を講じた上での利用および、プロンプトから学習を行わない生成 AI を選択することを推奨します。

3. 研究倫理と著作権

研究活動における「ねつ造」「改ざん」「盗用」は生成 AI の利用如何に関わらずコンプライアンスに反する行為です。生成 AI が作成した文章や画像は、他者の著作権等の権利を侵害する可能性があり、無警戒な活用は思わぬ不正行為に繋がりがかねません。また、生成 AI の内容には誤情報や偏見を含むことがあります。研究活動中は生成 AI の内容を鵜呑みにすることなく、十分な確認が必要です。とりわけ論文・レポート等の最終的な成果物の内容については、作成者（学生・研究者）自身が全ての責任を負う必要があります。

論文やレポートでは、文献やネット上の情報を引用する際は出典元を明記するのと同様、生成 AI の出力結果を利用する際には、どの生成 AI を用いたか、どの部分に用いたかを明記すること。また、使用過程（入力内容・出力結果・使用条件等）は追跡可能な形で記録を残し、照会に応じられるよう保存しておくこと。

4. 授業における利用ルール（*この項目は専ら学生向け内容）

学生は、授業によってはその特性に応じて生成 AI の利用が制限されたり禁止されたりする場合があるため、授業担当教員の指示に従うこと。生成 AI は学修を支援するための効果的なツールとして活用することができますが、利用するか否かはその授業の到達目標に鑑みます。また、大学における学修とは、結果そのものよりも結果を得るまでの過程が重要です。ルールの中での利用を恐れる必要はありませんが、くれぐれも安易な利用とならぬよう、常に留意しなければなりません。

5. AI リテラシーの継続的な学び

生成 AI はこの先さらに進化していくことが予想されます。生成 AI の出力には偏見（バイアス）や誤情報（ハルシネーション）が含まれる可能性があり、それらを見抜くには十分な知識と批判的思考力が必要です。本学に関係する教職員・学生は、生成 AI の特性やリスクについて継続的に学び、情報を鵜呑みにせず、常に自らの判断で内容を検証する姿勢を心がけてください。

6. 指針の見直し

本指針は、生成 AI に関する技術の進展や社会動向、運用状況等を踏まえ、修正される可能性があります。

以上